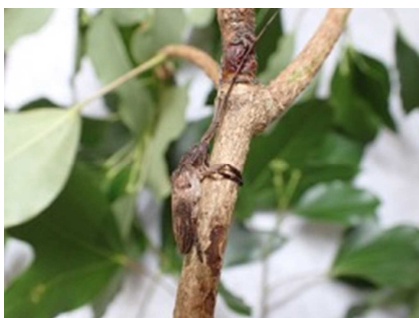


## かくれる

### 1. タテジマカミキリの越冬



タテジマカミキリ

冬の寒さに耐えるため、多くの生きものが対策をとっています。昆虫でも、成虫で越冬するものから、蛹(さなぎ)、幼虫、卵と様々です。越冬場所も重要な条件となります。一般に温度変化が少ない場所が選ばれるので、日陰とか風の当たらない物陰は観察の目のつけどころですが、必ずしもそうでないものがあるところが生きものの不思議なところですよ。

幼虫がカクレミノを食べるタテジマカミキリは、太さ2cmほどのカクレミノの枝の表面で越冬します。その方法は、凹みを作って下向きに入り、前脚と中脚で枝を抱え込み、長い触角は枝に沿わせます。

探し方は、幹や枝の先端が朽ちているカクレミノを見つけます。わずかな幹や枝の膨らみが、越冬中のタテジマカミキリの居場所です。色彩と体の縦縞模様が枝に化けてしまいます。幼虫を見つけることはたやすく、春新芽の伸びた頃に先端が萎れたり折れたカクレミノで見つかります。芯を食べるため折れてしまうのです。

本来が暖地の植物に依存しているため、物陰で越冬する習性を作らなかったのでしょう。

### 2. カクレミノ

ウコギ科(ウドやタラノキの仲間)でヤツデに近い植物です。葉が3裂し、蓑のようであることから天狗が姿を隠す「隠れ蓑」に例えられました。

温暖な地域の林下に生育する常緑性の垂高木で、光沢のある葉や日陰にも強いことから庭園樹として用いられますが、倉吉ではあまり利用されていません。樹齢によって葉形が変化し、若木では3~5裂、成木になると楕円形になります。幹や枝の1年目は緑色で、その後灰白色に変わります。材はもろくて簡単に折れ、太さが1.5cmくらいになると、タテジマカミキリの幼虫による食害が始まります。



カクレミノ



葉にある腺点

材の部分を食べ皮だけのようにな

るため上部が枯れ、翌年はその下部から芽を伸ばします。そのため2~3mもまっすぐのびているものはほとんど見ません。

つややかな葉を透かしてルーペで見ると、写真のように明るい点がたくさんみえます。腺点とよび、分泌細胞の間の隙間です。ヤツデにはありません。昆虫の食害を受けた時に連絡し合う、カクレミノ同士のコミュニケーション物質が入っているのかもしれません。

#### ルーペについて

20倍くらいを用いるといいでしょう。目にルーペを近づけて固定し、対象物を動かしてピントを合わせてください。